



| | |
|--------------|--|
| Title | Correlations between the Broad Autism Phenotype and Social Cognition among Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder |
| Author(s) | 長谷川, 恭子 |
| Citation | 大阪大学, 2014, 博士論文 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/50587 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏名 (長谷川 恭子)

論文題名

Correlations between the Broad Autism Phenotype and Social Cognition
among Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder
(自閉症スペクトラム児をもつ母親の自閉症広域表現型と社会的認知との関連)

〔 論文内容の要旨 〕

自閉症スペクトラム (ASD) 児の母親の自閉症広域表現型 (Broad Autism Phenotype : BAP) と、彼らのBAPと社会的認知との関連を検討することを目的に、ASD児の母親を対象として調査を行った。その結果、米国に比して、本邦ではBAPの中でも「pragmatic language」(語用論的言語使用)の欠如傾向が高いことが示された。加えて、BAPの中でも特に「rigid」(柔軟性のなさや型にはまった厳格な特性)傾向が一部の社会的認知と関連し、複数の情報を統合した上で判断することや信頼性を判断することの困難さが高まる可能性が示唆された。

〔 目 的 〕

近年BAPは、ASD児の養育者や親族において一定の割合で、定型発達児の養育者と比して多くみられることが指摘されており (Piven et al., 1997), BAPを持つ者における社会的認知がASD児・者と同様の傾向を有することが報告されている (Losh et al., 2009)。しかし本邦におけるこれらの観点からの報告はまだ見られないことから本研究では、第一に、本邦のASD児の養育者、特に母親におけるBAPを明らかにする。そして第二に複数の社会的認知課題を実施し、各感情における感情の読み取りを把握し、第三にASD児の母親のBAPの各特性と社会的認知との関連を検討する。

〔 方法ならびに成績 〕

大阪大学医学部附属病院小児科発達障害外来において、3~12歳のASDの診断を受けた子どもの母親51名を対象とした。対象者には、質問紙調査 (Broad Autism Phenotype Questionnaire (Hurley et al., 2007) の翻訳版 : BAPQ-J) と4つの社会的認知課題 (The Reading the Mind in the Eyes Task ; RE, The Movie Stills Task ; MS, The Point Light Basic Emotions Task ; PL-B, The Point Light Trustworthiness Task ; PL-T, Trustworthiness Task ; TT (Losh et al., 2009) の翻訳版) を実施した。その結果、第一に本研究対象者の BAPQ-J 下位尺度「pragmatic language」得点において、米国に比して本邦で有意に高い傾向が認められた。第二に、MS課題を用いて顔刺激の有無や感情の種類 (happy, sad, afraid, surprised, angry, neutral) によって社会的認知課題得点に違いがあるかを検討するために2要因分散分析を行った。その結果、顔刺激と感情の主効果、及び交互作用が有意であった。交互作用が認められたので、単純主効果の検定を行ったところ、顔刺激の有無による違いでは、happy, afraid, neutral では顔有場面で、sadでは顔無場面で、課題得点が有意に高かった。感情においては、単純主効果も有意であり、Bonferroniの多重比較の結果、surprisedでは顔刺激の有無に関わらず他の感情に比べて課題得点が有意に低かった。第三に、BAPQ-JにおけるTotal得点および各下位尺度得点と、各社会的認知課題得点間の相関分析を行った結果、BAPQ-J下位尺度「rigid」得点とMSの顔無 (happy), 顔有 (surprised) との間に有意な負の相関関係が、またBAPQ-J Total得点とPL-Tのpositive刺激の間、「rigid」得点とPL-Tのpositive刺激、TTのpositive顔刺激、TTのnegative顔刺激との間に有意な負の相関関係が認められた。

〔 総 括 〕

第一に、ASD児の養育者のBAPとして、米国に比して、本邦では、社会的状況に応じた言葉を適切に使用できていないと認識しているものの割合が高く、これは本邦の文化的特性として、多くの人が柔軟で相互的なコミュニケーションを行うことが求められ、相手との関係性を重視するところによることが示唆された。第二に、顔刺激の有無によって感情の読み取りに違いがみられた。ここではhappy感情やafraid感情においては、小林・苗村 (2005) が示したように顔や顔からの情報を手がかりとすることにより、顔無に比して顔有において読み取りが正確となったのに対し、sad感情では手や上半身の身ぶりなどを手がかりにすることから、顔無でより読み取りが正確となった。つまり、感情によって情報を読み取る部位に違いが見られることが示唆された。第三に、社会的認知においてはBAP の中でも特に「rigid」が関連しており、「柔軟性のなさや型にはまった厳格な特性」を有することによって、各感情判断において特異的に参照されるべき部位が示されないことで感情の読み取りが困難となるだけでなく、情報統合の判断、より複雑な情報処理の過程といえる信頼性判断にも困難さを示す傾向が高まることが示唆された。以上のことより、本邦のASD児の母親のBAP、及び BAPの中でも特にrigidが一部の社会的認知と関連する一つの要素であることが示唆された。

論文審査の結果の要旨及び担当者

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 氏 名 (長 谷 川 恭 子) | |
| 論文審査担当者 | (職) 氏 名 主 査 教 授 片 山 泰 一 |
| | 副 査 教 授 武 井 教 使 |
| | 副 査 教 授 井 村 修 |

論文審査の結果の要旨

近年、自閉症スペクトラム (Autism Spectrum Disorder : ASD) 児の養育者に、自閉症様の特性である自閉症広域表現型 (Broad Autism Phenotype : BAP) を有することが報告されてきているが、本邦では、この観点からの報告はまだ見られない。本研究は、ASD児をもつ養育者、特に母親のBAPについて、またその社会的認知との関連について検討することを目的に行われたものである。

調査方法は、Broad Autism Phenotype Questionnaireの翻訳版であるBAPQ-Jと社会的認知課題を用いた。その結果、本邦のASD児の母親のBAPの特徴、加えて、BAPと一部の社会的認知との関連性が示唆された。BAPと社会的認知との関連では、特にBAPの「柔軟性のなさや型にはまった厳格な特性」といった「rigid」を有することによって、各感情判断において特異的に参照されるべき部位が示されないことで感情の読み取りが困難となるだけでなく、情報統合の判断、より複雑な情報処理の過程といえる信頼性判断にも困難さを示す傾向が高まることが示された。

結果より、母親の特性の適切な把握、更には、これらを基に、それぞれの母親と子どもに応じた対応方法の支援などが可能となることから、より良い母子関係構築の支援の一助となりうるものと期待される。また、BAPという視点から、本邦のASD児の母親の基礎的資料を提供した点では評価でき、将来的には、GenotypeとPhenotypeの関連、環境要因の影響を検討することにより、ASDの原因を探求する研究に発展する可能性が期待できる。従って、本研究は、博士 (小児発達学) の学位授与に値すると考えられる。